

第 7 章

宿題・家庭学習指導と
土曜日の指導

西 島 央

新しい学習指導要領による授業時数の削減、完全学校週5日制の導入、「学びのすすめ」の提言などによって、家庭での学習がこれまで以上に求められるようになってきたが、これを受けて、小・中学校の教師は児童・生徒に対する家庭での学習の指導をどのように行っているのだろうか。本章では、教師の宿題や家庭学習の指導の様子と、管理職の土曜日の指導に対する考え方や学校としての実際の取り組みについて検討する。

第1節

宿題

1. 宿題の頻度と量

小学校教師の84.0%が宿題を「毎日出す」。中学校教師の27.3%が宿題を「ほとんど出さない」。宿題の量は、小・中学校教師とも8割強が15～30分程度の量を出している。

小・中学校の教師はどのくらいの頻度で宿題を出しているのだろうか。図7-1のように、小学校教師は、84.0%が「毎日」、8.5%が「2、3日に1回くらい」宿題を出している。教科担任制の中学校教師は、15.9%が「授業のたび」、27.0%が「授業2、3回に1回くらい」宿題を出しているが、「ほとんど出さない」教師も27.3%いて、二極分化している。中学生からすると、週に何回くらい宿題を出されていることになるだろうか。単純に平均週30時間授業があり、教科ごとの授業回数に違いがないと仮定して計算すると、週に9回強、宿題を出されていることになる(計算式: $30\text{時間} \times (15.9 + 27.0 \div 2.5 + 17.4 \div 4.5 + 11.6 \div 20) \times 1/100 = 9.36$)。つまり、ほぼ毎日、2人の教師から宿題を出されている。

図7-2から、小学校は授業最多学年(授業を最も多く担当している学年)別にみてもよい。小学校教師で「毎日」宿題を出しているのは小1生が88.9%で、学年が上がるにつれて徐々に減り、小6生では78.3%となっている。

続いて、中学校は担当教科別にみてもよい(図7-3)。中学校教師は担当教科によって出す頻度が大きく異なる。「授業のたびに出す」と「授業2、3回に1回くらい出す」を合わせると、「外国語」が最も頻度が高くて78.0%、次いで「数学」の61.4%で、「国語」「社会」と続き、最も低いのは「理科」の18.4%で、「外国語」より約60ポイントも少ない。

ところで、宿題を出す頻度には学習指導要領の改訂に伴う影響がみられるだろうか。中学校数学教師を例に、表7-1から新しい年間授業時数が十分か否かという意見別にみると、「不十分」とする教師は「授業のたびに出す」と「授業2、3回に1回くらい出す」を合わせて64.7%なのに対して、「十分」とする教師は54.4%と10ポイントほど低い。反対に「十分」とする教師で「ほとんど出さない」のは22.4%で、「不十分」とする教師より10ポイント以上多い。現行の授業時数だけでは目標を達成しきれないと考えている教師が、不足分と考える分を宿題に委ねている様子がうかがえる。

では、小・中学校の教師は1回あたりどれくらいの量の宿題を出しているのだろうか。小学校は学年別(表7-2)、中学校は教科別(表7-3)に、児童・生徒にとっての平均的な宿題の量(時間)を示してみよう。小・中学校を比べると、「15分」と「30分」の和が小学校で86.6%、中学校で81.7%と大きな差はない。ただし、中学校では、ほぼ毎日2人の教師から宿題が出されているので、生徒はこの倍の時間を宿題にかけていることになる。小学校を学年別にみると、小1生では「15分」61.3%、「30分」35.4%が多いが、学年が上がるにつれて長くなり、小6生では「15分」はわずかに14.3%、「30分」が61.0%、「45分」以上もかかる宿題を出す教師も約4分の1いる。中学校を教科別にみると、「30分」以内がほとんどで、「15分」「30分」とい

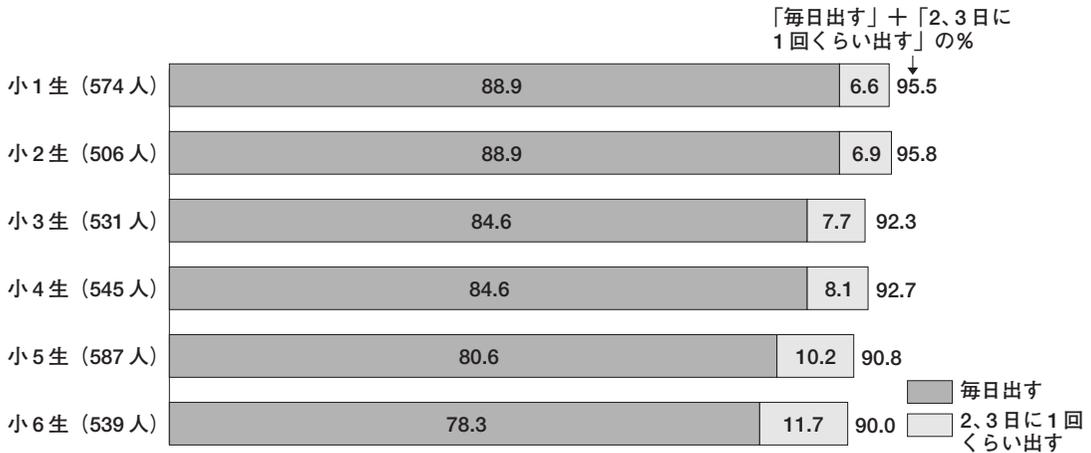
う回答が最も少ないのが「社会」の72.0%、多いのが「外国語」の88.1%と「数学」の88.3%である。「15分」という回答では、「外国語」と「数学」が30%前後と他教科よりや

や多く、この2教科は、宿題の頻度は高いが、1回あたりの量は他の教科より少ないという特徴がある。

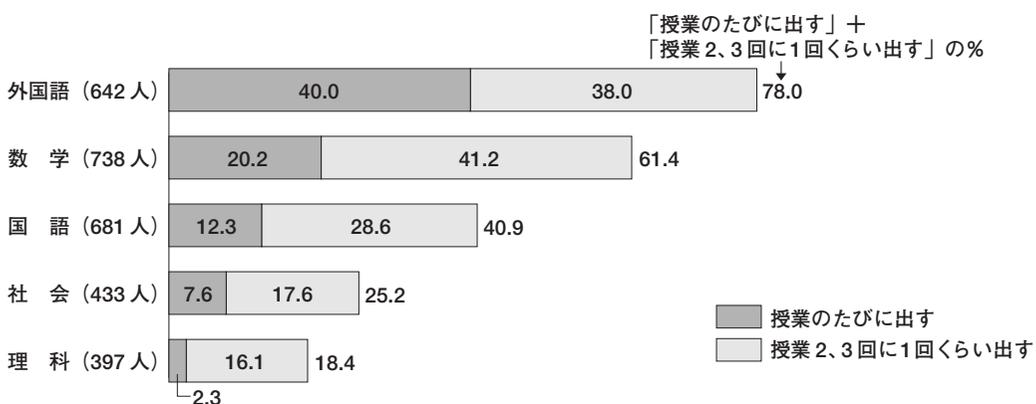
■図7-1 宿題を出す頻度(小・中学校教師)



■図7-2 宿題を出す頻度(小学校教師/授業最多学年別)



■図7-3 宿題を出す頻度(中学校教師/担当教科別)



■表7-1 宿題を出す頻度(中学校数学教師/授業時数への考え別)

(%)

	授業のたびに出す	授業2、3回に1回くらい出す	授業4、5回に1回くらい出す	月に1回くらい出す	ほとんど出さない	無答不明
年間授業時数は全体として十分である(228人)	21.9	32.5	19.7	3.5	22.4	0.0
年間授業時数は不足している(507人)	19.5	45.2	15.6	9.3	10.1	0.4

注1) 授業時数への考え方についての設問で「無答不明」であった3名は省略した。

注2) 授業時数への考え方は、「どちらかといえば」と回答した者も含む。

■表7-2 1回あたりの宿題の量(小学校教師/授業最多学年別)

(%)

	全体(3467人)	小1生(556人)	小2生(491人)	小3生(510人)	小4生(520人)	小5生(556人)	小6生(516人)
15分	33.0	61.3	45.4	30.2	21.5	22.7	14.3
30分	53.6	35.4	49.1	59.0	62.9	57.6	61.0
30分までの小計	86.6	96.7	94.5	89.2	84.4	80.3	75.3
45分	9.8	2.2	3.7	9.2	12.3	14.4	16.9
1時間	3.0	0.4	1.0	1.4	3.1	4.9	6.6
それ以上	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4

注) サンプルは、宿題についての設問で「毎日出す」「2、3日に1回くらい出す」「週に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した小学校教師。

■表7-3 1回あたりの宿題の量(中学校教師/担当教科別)

(%)

	全体(2441人)	国語(556人)	社会(301人)	数学(632人)	理科(252人)	外国語(595人)
15分	24.0	17.8	16.9	32.4	18.3	27.9
30分	57.7	60.8	55.1	55.9	55.6	60.2
30分までの小計	81.7	78.6	72.0	88.3	73.9	88.1
45分	9.2	12.6	10.6	6.6	11.5	6.6
1時間	6.6	7.6	10.6	3.2	10.7	4.4
それ以上	1.7	0.5	5.6	1.3	2.8	0.2

注) サンプルは、宿題についての設問で「授業のたびに出す」「授業2、3回に1回くらい出す」「授業4、5回に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した中学校教師。

2. 宿題の内容

小学校で最も多く出される宿題は「計算や漢字等の反復的な練習」97.0%で、「音読」86.0%、「学校指定の副教材、問題集」68.7%と続く。中学校では「学校指定の副教材、問題集」78.8%が最も多く、「授業でやり残した作業や課題」「計算や漢字等の反復的な練習」「自作プリント」「教科書の問題」「定期試験対策になる内容」が50%以上となっている。

次に宿題の内容についてみていこう。表7-4、表7-5のように、宿題の内容が予習のか復習のかをたずねたところ、小学校教師の91.5%、中学校教師の68.3%が「復習的な内容が多い」と回答している。中学校では小学校よりも予習的な内容の宿題を出す傾向がみられるが、全体的には復習的な内容が多いといえる。小学校では特に低学年ほどその傾向が強く、小6生では「予習的な内容が多い」と「半々くらい」を合わせて12.6%だが、小1生では2.3%にすぎず、ほとんどが復習

的な宿題である。中学校では教科による差異が大きく、「数学」では95.9%が、「理科」では87.7%が「復習的な内容が多い」と回答している。「数学」や「理科」は学校で習う前に自分では学習しにくいからだろう。これに対して「予習的な内容が多い」と「半々くらい」を合わせて予習的な宿題が多いのが、「外国語」48.6%、「国語」42.4%、「社会」34.5%である。これらの教科は単語や用語を事前に学習しておくことが授業に必要だったり有効だったりするからだろう。

■表7-4 宿題の内容（小学校教師／授業最多学年別）

	(%)						
	全体 (3467人)	小1生 (556人)	小2生 (491人)	小3生 (510人)	小4生 (520人)	小5生 (556人)	小6生 (516人)
予習的な内容が多い	0.8	0.5	0.8	0.6	0.4	0.7	1.4
復習的な内容が多い	91.5	97.1	95.5	93.1	90.0	89.7	84.9
半々くらい	6.5	1.8	3.5	5.3	7.7	8.5	11.2
その他	1.0	0.4	0.2	0.8	1.7	0.9	2.3

注) サンプルは、宿題についての設問で「毎日出す」「2、3日に1回くらい出す」「週に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した小学校教師。

■表7-5 宿題の内容（中学校教師／担当教科別）

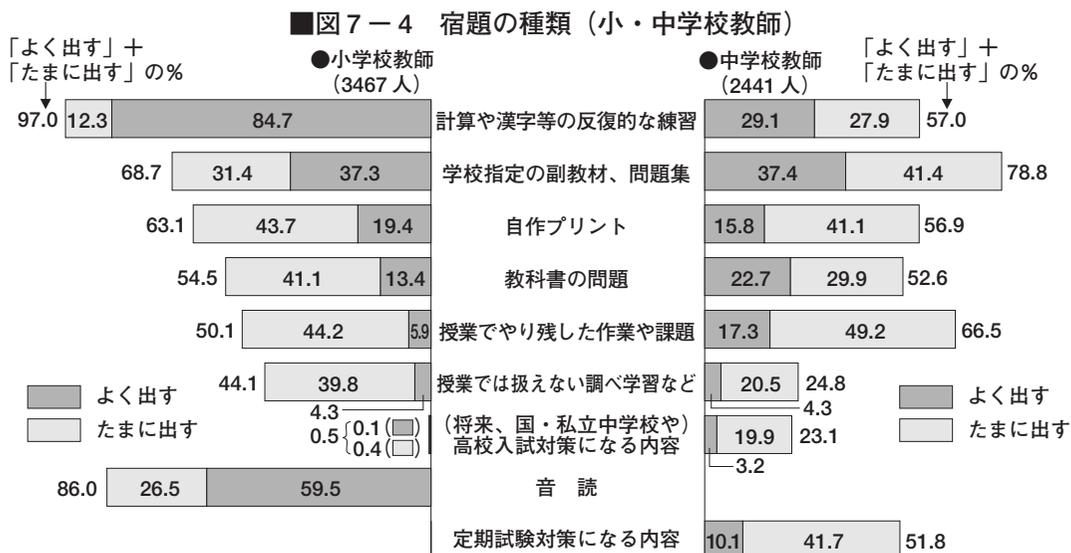
	(%)					
	全体 (2441人)	国語 (556人)	社会 (301人)	数学 (632人)	理科 (252人)	外国語 (595人)
予習的な内容が多い	11.5	16.0	18.9	0.8	3.6	18.2
復習的な内容が多い	68.3	54.1	60.5	95.9	87.7	50.6
半々くらい	17.7	26.4	15.6	2.7	6.0	30.4
その他	2.1	3.1	4.7	0.3	2.0	0.5

注) サンプルは、宿題についての設問で「授業のたびに出す」「授業2、3回に1回くらい出す」「授業4、5回に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した中学校教師。

宿題の種類について詳しくみると、図7-4のように、小学校で最もよく出されるのは「計算や漢字等の反復的な練習」で、「よく出す」と「たまに出す」を合わせて97.0%にも上る。次いで「音読」の86.0%、「学校指定の副教材、問題集」の68.7%と続いている。「教科書の問題」や「授業でやり残した作業や課題」は50%強とやや低く、授業時数削減の影響はさほど強くないようだ。中学校で最もよく出されるのは「学校指定の副教材、問題集」の78.8%で、続いて「授業でやり残した作業や課題」「計算や漢字等の反復的な練習」「自作プリント」「教科書の問題」「定期

試験対策になる内容」がいずれも50%以上と多岐にわたっているが、「高校入試対策になる内容」は23.1%と少ない。

表7-6から、小学校を学年別にみると、「計算や漢字等の反復的な練習」はどの学年でも90%台とまんべんなく出されているものの、「教科書の問題」は小1生の39.8%から小6生の60.8%に、「授業では扱えない調べ学習など」は小1生の27.6%から小6生の53.9%にと、学年が上がるるとともに増えていく傾向がある。一方、「音読」は小1生の96.4%から小6生の71.9%に減っていくなど、宿題の内容は学年段階に応じていることがわかる。



注1) サンプルは、宿題についての設問で「毎日出す」「2、3日に1回くらい出す」「週に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した小学校教師、および「授業のたびに出す」「授業2、3回に1回くらい出す」「授業4、5回に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した中学校教師。

注2) 「将来、国・私立中学校や高校入試対策になる内容」は、中学校教師には「高校入試対策になる内容」としている。

注3) 「音読」は中学校教師には聞いていない。また、「定期試験対策になる内容」は小学校教師には聞いていない。

■表7-6 宿題の種類 (小学校教師/授業最多学年別)

(%)

	全体 (3467人)	小1生 (556人)	小2生 (491人)	小3生 (510人)	小4生 (520人)	小5生 (556人)	小6生 (516人)
計算や漢字等の反復的な練習	97.0	97.2	98.4	97.3	97.7	96.7	96.1
音読	86.0	96.4	93.9	89.3	86.1	78.6	71.9
教科書の問題	54.5	39.8	51.7	56.4	61.9	58.7	60.8
授業でやり残した作業や課題	50.1	34.2	47.1	49.6	55.6	57.7	57.1
授業では扱えない調べ学習など	44.1	27.6	31.7	47.4	53.8	52.5	53.9

注1) サンプルは、宿題についての設問で「毎日出す」「2、3日に1回くらい出す」「週に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した小学校教師。

注2) 数値は「よく出す」と「たまに出す」の合計。

表7-7から、中学校を教科別にみると、宿題の中身は教科によってかなり異なる。「国語」では「計算や漢字等の反復的な練習」84.7%と「授業では扱えない調べ学習など」39.0%が、「社会」でも「授業では扱えない調べ学習など」47.2%が多く、生徒の主体的な学習が求められているようだ。「数学」では「教科書の問題」82.3%が目立って多く、「学校指定の副教材、問題集」も若干多くなっており、教科書の消化と学習内容の定着が目指されているようだ。「理科」は「計算や漢字等の反復的な練習」も「授業では扱えない調べ学習など」も少ない。「外国語」は「計算や漢字等の反復的な練習」が67.3%で「国語」に次いで多いが、「授業では扱えない調べ学習など」は少なく、予習的な内容が多いことから、応用的、主体的な学習の宿題が少ないことがわかる。

このようにして出された宿題に対して教師は事後的な指導をしているのだろうか。表7-8、表7-9のように、小学校では学年が上がるにつれてやや下がっているが、9割前後の教師が「宿題は、できるだけ、丸つけや添削をして児童に返すようにしている」と回答しており、出しっぱなしではない。一方、中学校教師では同様の回答が全体で6割強にとどまり、特に「数学」では44.8%しか「丸つけや添削」をしていない。復習的な内容を教科書や問題集から出していることから、次の授業のなかで確認していると思われる。「宿題は、できるだけ、丸つけや添削をして生徒に返すようにしている」割合が高かったのは、「国語」の72.1%と「外国語」の71.9%で、これは漢字や単語の書き取りなど、授業中に全員一斉に確認することができない内容だからと思われる。

■表7-7 宿題の種類（中学校教師／担当教科別）

	全体 (2441人)	国語 (556人)	社会 (301人)	数学 (632人)	理科 (252人)	外国語 (595人)
学校指定の副教材、問題集	78.8	78.3	73.1	88.4	83.7	76.5
授業でやり残した作業や課題	66.5	73.6	58.5	64.5	62.7	66.7
計算や漢字等の反復的な練習	57.0	84.7	19.7	62.9	14.7	67.3
教科書の問題	52.6	39.7	34.2	82.3	36.2	51.8
定期試験対策になる内容	51.8	51.3	62.5	45.7	56.0	53.6
授業では扱えない調べ学習など	24.8	39.0	47.2	5.4	22.6	18.5

注1) サンプルは、宿題についての設問で「授業のたびに出す」「授業2、3回に1回くらい出す」「授業4、5回に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した中学校教師。

注2) 数値は「よく出す」と「たまに出す」の合計。

■表7-8 宿題を出した後の指導（小学校教師／授業最多学年別）

	全体 (3467人)	小1生 (556人)	小2生 (491人)	小3生 (510人)	小4生 (520人)	小5生 (556人)	小6生 (516人)
宿題は、できるだけ、丸つけや添削をして児童に返すようにしている	92.6	98.2	96.5	95.3	91.3	89.7	86.0

注1) サンプルは、宿題についての設問で「毎日出す」「2、3日に1回くらい出す」「週に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した小学校教師。

注2) 複数回答（4項目のうち、1項目を表示）。

■表7-9 宿題を出した後の指導（中学校教師／担当教科別）

	全体 (2441人)	国語 (556人)	社会 (301人)	数学 (632人)	理科 (252人)	外国語 (595人)
宿題は、できるだけ、丸つけや添削をして生徒に返すようにしている	61.5	72.1	60.5	44.8	54.4	71.9

注1) サンプルは、宿題についての設問で「授業のたびに出す」「授業2、3回に1回くらい出す」「授業4、5回に1回くらい出す」「月に1回くらい出す」と回答した中学校教師。

注2) 複数回答（4項目のうち、1項目を表示）。

第2節

家庭学習指導の有無と時間

家庭学習指導の実施率は、小学校教師が57.8%、中学校教師が64.5%である。指導している学習時間は、小学校中学年以下は「30分」までが多いが、小6生では「1時間」以上が半数強。中学校になると、中1生では「1時間」、中3生では「2時間」が最も多い。

小・中学校の教師は、宿題を出す以外に、児童・生徒に対して家庭で勉強するように指導しているのだろうか。指導している場合、一日どれくらい勉強するように指導しているのだろうか。表7-10から小学校教師の家庭学習指導の様子を授業最多学年(授業を最も多く担当している学年)別にみると、家庭学習指導の実施率は小1生の46.0%から小6生の66.4%まで、学年が上がるにつれて20ポイントほど上昇している。また学習するように指導する時間は、小1生は「15分」42.8%、「30分」48.5%と、「30分」までで9割に上る。その後、学年の上昇とともに学習するように指導する時間は長くなり、小4生、小5生をターニングポイントに、小6生では「30分」

までが3割強に減る一方、「1時間」以上が小1生の4.2%から小6生では52.0%にまで増えている。

次に表7-11から中学校教師の家庭学習指導の様子を担当学年別にみると、家庭学習指導の実施率はどの学年でも6割強である。しかし、学習するように指導する時間は学年によって差がみられ、中1生では「1時間」42.4%、「2時間」28.4%なのに対して、中3生では「1時間」21.2%、「2時間」40.7%となっている。学年が上がるにつれて、「1時間」が減って、「2時間」が増えている。また、中3生では家庭学習を「3時間」以上するように指導している教師も17.7%と約6人に1人いる。

■表7-10 家庭学習指導の有無と時間(小学校教師/授業最多学年別)

(%)

		全体 (3619人)	小1生 (574人)	小2生 (506人)	小3生 (531人)	小4生 (545人)	小5生 (587人)	小6生 (539人)
家庭学習の指導		57.8	46.0	52.0	58.6	61.1	61.7	66.4
		全体 (2090人)	小1生 (264人)	小2生 (263人)	小3生 (311人)	小4生 (333人)	小5生 (362人)	小6生 (358人)
学習するように指導する時間	15分	12.8	42.8	24.0	7.4	6.6	4.1	1.4
	30分	48.5	48.5	65.8	71.1	52.0	33.4	30.2
	「30分」までの小計	61.3	91.3	89.8	78.5	58.6	37.5	31.6
	45分	16.9	4.2	3.8	13.2	25.5	29.6	16.5
	1時間	19.8	4.2	6.1	6.8	15.0	29.6	48.9
	1時間半	1.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.7	2.8
	2時間	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.3
	「45分」以上の小計	37.9	8.4	9.9	20.3	40.8	61.2	68.5

注1)「家庭学習の指導」は、家庭での学習時間の指導をしているかどうかを聞く設問で「はい」と回答した割合。

注2)「学習するように指導する時間」は、家庭学習の指導をしていると回答した小学校教師2090人を母数にしている。

■表7-11 家庭学習指導の有無と時間(中学校教師/担任学年別)

(%)

		全体 (2873人)	中1生 (926人)	中2生 (951人)	中3生 (954人)
家庭学習の指導		64.5	67.3	61.8	63.8
		全体 (1854人)	中1生 (623人)	中2生 (588人)	中3生 (609人)
学習するように指導する時間	15分	1.6	2.1	1.5	1.0
	30分	7.9	9.3	9.7	4.6
	45分	1.0	1.8	0.5	0.8
	1時間	33.2	42.4	36.2	21.2
	「1時間」までの小計	43.7	55.6	47.9	27.6
	1時間半	12.3	13.6	14.5	9.4
	2時間	33.8	28.4	31.1	40.7
	2時間半	1.6	0.8	1.7	2.5
	3時間	6.0	0.8	3.1	14.4
	それ以上	1.1	0.0	0.2	3.3
「1時間半」以上の小計	54.8	43.6	50.6	70.3	

注1)「家庭学習の指導」は、家庭での学習時間の指導をしているかどうかを聞く設問で「はい」と回答した割合。

注2)「家庭学習の指導」のサンプルは、「担任をしている」、あるいは「副担任をしている」と回答した中学校教師。「学習するように指導する時間」は、家庭学習の指導をしていると回答した1854人を母数にしている。

第3節

土曜日の指導の方針と実態

小学校管理職の7割、中学校管理職の6割が、「土曜日の生活や学習の指導は家庭等に委ねたい」と考えている。小学校では教師がかかわる取り組みはほとんど行われていないが、95.2%の中学校で「教員による部活動の指導」が行われている。

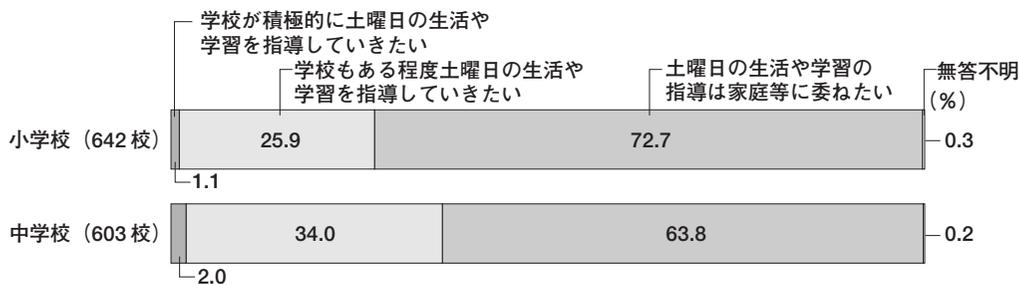
2002年度から始まった完全学校週5日制に伴い、学校では土曜日の指導をどのように考え、また実際にどのような取り組みを行っているのだろうか。ここでは学校調査の結果からみていく。まず、図7-5のように、「土曜日の生活や学習の指導は家庭等に委ねたい」とする考えが小学校では72.7%で中学校では63.8%となっており、「学校が積極的に土曜日の生活や学習を指導していきたい」「学校もある程度土曜日の生活や学習を指導していきたい」という考えを大幅に上回っている。

次に、表7-12から土曜日に行われている取り組みの実態をみると、小学校では「地域の団体が企画・運営する学習・体験活動の紹介」62.0%と「教育委員会などの公的機関が企画・運営する学習・体験活動の紹介」58.6%が目立った取り組みで、「学校が実質的に企画・運営する学習・体験活動」は4.8%にすぎず、「特に行っていない」学校も18.4%と、教師が直接関与する取り組みは非常に少な

い。中学校では「教員による部活動の指導」が95.2%とほとんどの学校で行われていて、多くの教師が部活動指導のために土曜日も生徒の指導に直接かかわっていることがわかる。クラブ活動の廃止により、すべての教師が部活動の顧問となる状況はなくなりつつあるが、制度的な裏づけが失われた分、顧問をしている教師の個人的な負担は大きくなっていくと考えられる。なお、「地域の団体が企画・運営する学習・体験活動の紹介」と「教育委員会などの公的機関が企画・運営する学習・体験活動の紹介」も5割弱の学校で行われている。

最後に、表7-13から土曜日の指導方針別に取り組みの実態が違うかどうかをみてみよう。小・中学校ともに「学校が関与する」方針をもっている学校のほうが、「家庭に委ねる」という方針の学校よりも、どの項目でも多く取り組んでおり、方針と実態が一致している様子が見えてくる。

■図7-5 土曜日の指導(小・中学校)



■表7-12 土曜日の指導の内容(小・中学校)

	(%)	
	小学校 (642校)	中学校 (603校)
教員による部活動の指導	—	95.2
教員による学習の指導	0.5	1.3
学校が実質的に企画・運営する学習・体験活動	4.8	7.6
学校が、公的機関、地域の団体、PTAなどに企画・運営を依頼して行う学習・体験活動	16.0	10.4
教育委員会などの公的機関が企画・運営する学習・体験活動の紹介	58.6	45.4
民間企業が企画・運営する学習・体験活動の紹介	16.8	10.1
地域の団体が企画・運営する学習・体験活動の紹介	62.0	46.1
その他の取り組み	9.5	3.6
特に行ってない	18.4	2.0

注1) 複数回答。

注2) 「教員による部活動の指導」は、小学校管理職には聞いていない。

■表7-13 土曜日の指導の内容(小・中学校/土曜日の指導方針別)

	小学校		中学校	
	学校が関与する (173校)	家庭に委ねる (467校)	学校が関与する (217校)	家庭に委ねる (385校)
学校が実質的に企画・運営する学習・体験活動	7.5	3.9	12.0	5.2
学校が、公的機関、地域の団体、PTAなどに企画・運営を依頼して行う学習・体験活動	23.1	13.5	14.7	8.1
教育委員会などの公的機関が企画・運営する学習・体験活動の紹介	64.2	56.5	52.5	41.3
地域の団体が企画・運営する学習・体験活動の紹介	70.5	59.1	53.9	41.6
教員による部活動の指導	—	—	96.8	94.3

注1) 複数回答。9項目中、5項目を表示した。

注2) 「学校が関与する」は、土曜日の指導方針について「学校が積極的に土曜日の生活や学習を指導していきたい」、もしくは「学校もある程度土曜日の生活や学習を指導していきたい」と回答した学校。「家庭に委ねる」は「土曜日の生活や学習の指導は家庭等に委ねたい」と回答した学校。